

7 できた堆肥の使い方

完熟させた堆肥に栄養分とミネラルが多く含まれているため、肥料として使用できます。

分解できる生ゴミの量は30kg以上

あら！かたいこ 家堆粉 やね～

畑で元肥として使用の場合 (使用目安: 1㎡に1～2ℓ)
すき込みして2～3週間以上置いてから種まき、植え付けする。

プランターで元肥として使用の場合 (使用目安: プランターの1/5)
2～3週間おいてから種まき、植え付けしよう。

自宅で使用しない場合
明和工業で受け取りますので、持ち込み、500円相当の商品(肥炭粉、木酢液あるいは家堆粉10ℓ)と交換できる。



8 こんなトラブルの場合

- かさが増え、基材がベタついてきたら**
水蒸気が発散できず、基材の水分が多くなっている。
- ① 1日～2日程度日光浴させ、水分を逃します。
 - ② 廃油、米ぬかなどの高カロリーな物を入れてよく混ぜます。
 - ③ 水分をある程度切ってから投入することをお勧めします。
 - ④ 夏場は虫よけカバーのみにして、水分が蒸発しやすくしましょう。

- 温度が上がらない。**
ほんのり温かい程度が正常です。
- ① スタート時: 分解が始まるまで2週間ぐらいかかるので、温度が低いのは正常です。
 - ② 2週間以降、温度が低く、分解も遅ければ、高カロリーのものを入れて、よくかきまぜましょう。
 - ③ 冬場: 室内に置く。段ボールに毛布などをかぶせる。お湯が入ったペットボトルで段ボールを囲んでおく。
 - ④ 使用してかなり時間(通常は約3ヶ月)が経っている場合は、交換の時期になっている証拠なので、基材を交換しましょう。

- 分解が進まない。**
- ① スタート時: 生ゴミを少なめ(300gまで)に入れましょう。
 - ② 生ゴミを可能な限り細かくしてから投入しましょう。
 - ③ 定期的に(7～10日)、廃油、米ぬか、天かすなどを入れて、微生物を活性化させましょう。但し、入れすぎると、臭いの原因となります。

- 中で虫が大量に発生した場合**
- ① 成虫、蛆の場合、市販の殺虫剤をふたの内側や段ボールの壁、基材の表面に散布しましょう。
 - ② 基材を段ボールから取り出し、黒いビニール袋に入れ、3日間程度日光浴させてから、段ボールに戻します。
 - ③ 普段から生ゴミに卵を産まさないように気をつけましょう。
 - ④ 特に夏場は虫よけカバーは欠かせないでください。

- 臭いがきつい。**
- ① 生魚や肉はなるべく入れないように、入れてしまった場合は、屋外に2日程度おけば、分解が進み、臭いが収まります。
 - ② コーヒーかすを入れる;
 - ③ 通気がよくない可能性があるため、かき混ぜる回数を増やす。
 - ④ 水分を逃す対策を取りましょう。

- 旅行などで、利用しない場合**
- ① 2～3日前から生ごみの投入をやめ、毎日かき混ぜます。
 - ② 戻ってきたら、よくかき混ぜ、空気を十分に入れてあげてから、通常通り使用できます。
 - ③ 二週間以上使用しない場合、基材が腐ってしまうこともあります。その場合、基材の交換が必要です。

- 表面にカビが出た。**
- ① 白カビは糸状菌の一種、上手く分解している状態なのでそのまま混ぜる。
 - ② 白カビ以外カビは少しならよくかき混ぜておけば、なくなりますが、心配であれば、除去しましょう。

使用ガイド

電気不要

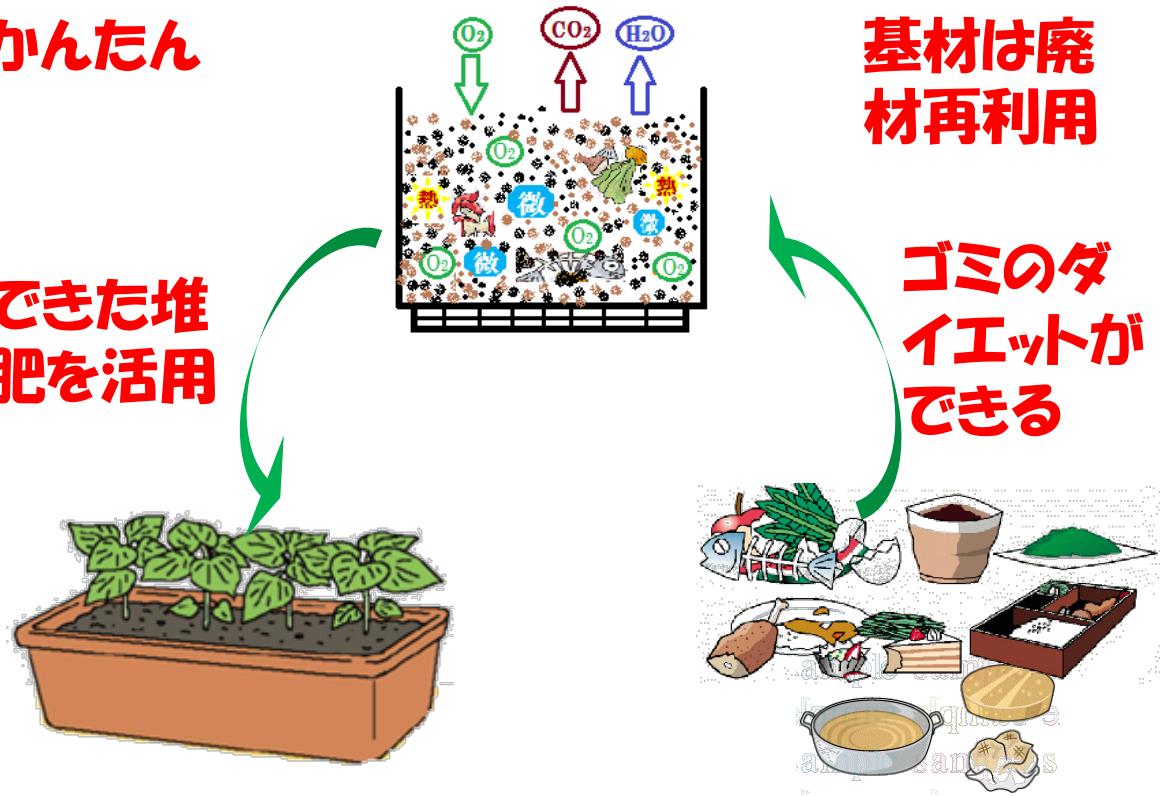
臭いがしない

かんたん

基材は廃材再利用

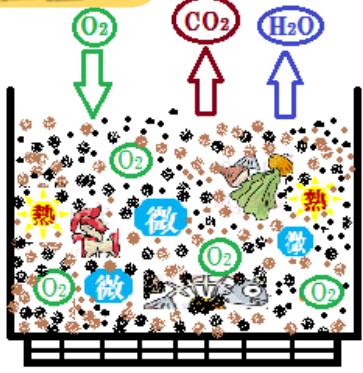
できた堆肥を活用

ゴミのダイエットができる



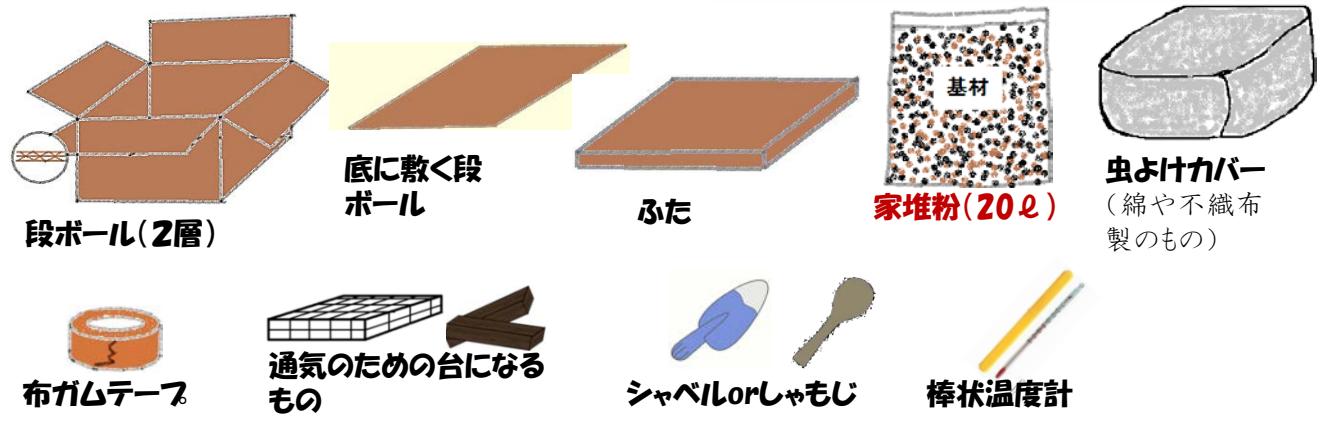
1 段ボールコンポストの仕組み

家庭から出る生ゴミを基材（膨軟もみがら、もみ殻くん炭）とともに段ボール箱に入れ、それらの生ゴミを好気性（酸素を必要とする）の微生物により分解させ、堆肥にする、生ゴミ処理器の一種です。



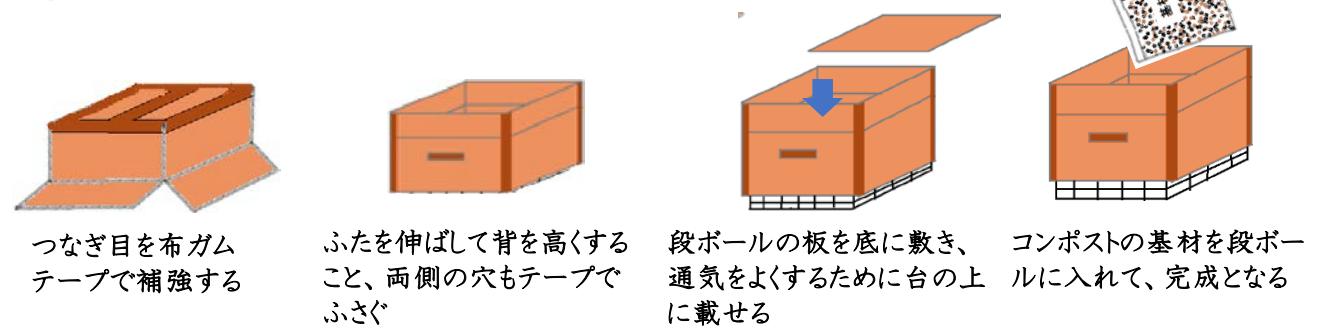
段ボールのメリット：
 ◆ 入手しやすい・水分調整ができる・通気性がよい・保温性がある
 ◆ 生ゴミの80%以上が水分
 ◆ 生ゴミは微生物により分解され、ほとんどがCO₂とH₂Oになる

2 必要なもの



薄いものは破けやすいので、**果物に使われている段ボール箱**がおすすめです。

3 段ボールコンポストの作り方



ポイント

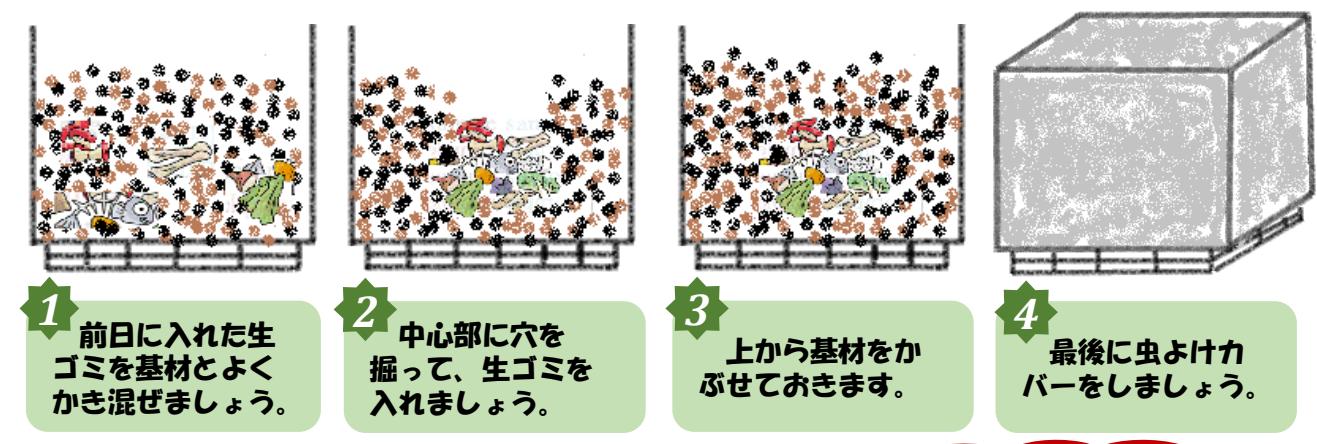
- ① 水分が蒸発しないと、段ボールが傷みやすくなるため、ガムテープの使用面積を最小限に抑えましょう。段ボールのトレーなどの段ボール材で補強することをお勧めします。
- ② 最初は基材の2/3程度をいれ、残りの分はその後の水分調整に使います。
- ③ 段ボール箱は容量が20L以上ものを選びましょう。
- ④ 底に敷く段ボールも厚みがあるものにしましょう。

段ボール以外に使用可能なもの

- これらのものは段ボールより長持ちはする
- 通気性にかける、使用の場合、虫よけキャップのみで、ふたはしないように
- 特に、バケツは保温性がよくないため、冬場に向かない

4 毎日の生ゴミの投入手順

一日最大500g(三角コーナー1杯)を目安として投入してください。



生ゴミ入れなくても、毎日一回のかき混ぜは欠かせないでね

5 段ボールコンポストのポイント

1 投入物 (水切りはしなくてよいが、なるべく細かくするのがポイント)

入れているもの (新鮮なうちに入れましょう)

野菜くず、果物の皮、天かす、お菓子、ヨーグルト、納豆、食べ残し、コーヒーかす、米ぬか、廃食用油、魚のあら、肉(高カロリーものは温度を上げ分解を促進する)

入れていけないもの (トラブルの原因になります)

貝殻、たまねぎの皮、大きな骨、トウモロコシの芯、腐ったもの、大量の塩蔵品、カビの生えたもの、ぬか床、かきの殻、魚の内臓(アンモニアが発生し、臭いの原因になる)

2 置き場所について

- 雨が当たらない
- 風通しのよい
- 日当たりがよい(できれば)

3 温度管理について

- 20℃以上
- 20~40℃で、分解が順調
- 寒い季節は温度調整が必要(高カロリーのを時々入れる；毛布などを被せる)

4 虫対策について

- 生ゴミは、虫に卵を産ませないように
- 虫よけカバーなどを使って、虫が入らないようにする

6 熟成させるのには **熟成の必要性** 生ゴミ投入を終了した時点では、堆肥ではありません。未熟な堆肥は植物の根を傷めることがあります。

投入期間3ヶ月から6ヶ月程度経過し、基材がべたつき、分解するまでに時間がかかると感じた時が熟成を行う時期です。

熟成の手順

- ① 生ゴミの投入を止め、3~4日間は1日1回かき混ぜる。
- ② その後1週間に1回程度10~20の水分を加え、基材全体をよく混ぜて分解を促進する。
- ③ 熟成期間は、夏期で2週間から1ヶ月、冬期で1ヶ月から2ヶ月程度で、生ゴミの形がなくなり、水分を加えても温度の上昇がなければ熟成完了となる。
- ④ a. 明和工業に持ち込む
b. 自家消費の場合、通気性のある容器で保存する

ポイント 二回目も行う方は新しい基材に今回のものを少し(1~20)を混ぜると促進効果があり、分解が早く始まります。